

研 究 成 果 の 発 表

1. 刊行物および学・協会誌に発表のもの（1975～1981年）

池 田 宏	砂礫堆からみた河床形状のタイプと形成条件	地理学評論, 48, 712-730.	1975
井 口 正 男	「漂砂と流砂の水理学」	古今書院, 290p.	1975
小 野 有 五	日本アルプスのカール地形	地理学評論, 48, 155-157.	1975
小 野 有 五	氷河地形の同定について	式正英編「日本氷期の諸問題」, 古今書院, 15-28.	1975
小 野 有 五	日高山脈における恵庭 a 降下軽石堆積物の発見とその意義	地質学雑誌, 81, 333-334.	1975
Kotoda, K. Mizuyama, T.	Water balance of the lake Biwa and its catchment area.	Assoc. Inter. Sci. Hydrol. Symp. Tokyo, Publication No. 117, 21-28.	1975
林 陽 生	広戸風について	法政大学地理学集報, 4, 23-28.	1975
小 野 有 五	谷川連峰の地形発達史	国立公園協会「関越自動車道関越トンネル周辺地域の自然環境に関する調査報告」, 73-117.	1976
小 野 有 五	国道 291 号自然環境調査報告（地形・地質編）	国立公園協会「国道 291 号自然環境調査報告」, 30-37.	1976
市 川 正 己 高山 茂 美 田 中 正 作 田 口 雄 夫 佐 倉 保 夫	水文循環に及ぼす都市化の影響—筑波研究学園都市およびその周辺地域の場合—	筑波の環境研究, 1, 10-21.	1976
Ichikawa, M. Takayama, S. Tanaka, T. Tagutschi, Y. Sakura, Y.	Effects of urbanization on hydrologic cycle in and around the Tsukuba Academic Town.	Ann. Rep., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, no. 2, 20-25.	1976
林 陽 生	インドシナ半島とその周辺における異常乾湿	気候学・気象学研究報告, 2, 24-31.	1976
吉 野 正 敏 高 橋 浩 一 甲 斐 啓 子 小 林 陽 守 林 陽 生	筑波研究学園都市の気温分布	筑波の環境研究, 1, 27-43.	1976

吉高甲小林	野橋斐林	正浩一陽	敏郎子守生	筑波研究学園都市の気温	気候学・気象学研究報告, 1, 1-38.	1976
池田	宏			蛇行河道における砂礫堆の成因	筑波大学水理実験センター報告, 1, 17-31.	1977
池田小佐増松	宏五夫雄次	有保富士栄		筑波台地周辺低地の地形発達—鬼怒川の流路変更と霞ヶ浦の成因—	筑波の環境研究, 2, 104-113.	1977
泉	耕二			孤立峰まわりの流れに関する実験	筑波大学水理実験センター報告, 1, 33-40.	1977
市川佐倉	正保己夫			筑波研究学園都市およびその周辺地域における諸河川の流出特性について	筑波の環境研究, 2, 95-99.	1977
Inokuchi, M.				Grain size distribution of river bed material and their hydraulic interpretation.	Ann. Rep., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, no. 3, 16-21.	1977
小野有五				ヒマラヤの生態学と地質学に関する国際会議	地学雑誌, 86, 322-331.	1977
古藤田一雄				気候学的資料を用いた湖面蒸発の推定法	筑波大学水理実験センター報告, 1, 53-65.	1977
佐倉保夫				帯水層の温度分布から地下水流速を推定する試みについて	筑波大学水理実験センター報告, 1, 67-76.	1977
佐倉保夫				水温分布から地下水流速を推定する方法—札幌周辺の地下水について—	水温の研究, 21(2), 2-14.	1977
林陽生				台形模型下流の気流に関する風洞実験	筑波大学水理実験センター報告, 1, 41-52.	1977
林陽生				熱収支観測システム	筑波大学水理実験センター報告, 1, 84-87.	1977
林陽生				インドシナ半島周辺におけるモンスーンに伴う降水分布	地理学評論, 50, 238-248.	1977
池田	宏			水路幅が掃流砂量に与える影響について	筑波大学水理実験センター報告, 2, 1-7.	1978
池田	宏			泥岩からなる河床に形成される縦溝について	筑波大学水理実験センター報告, 2, 91-95.	1978
泉井	耕二男	耕止		鬼怒川の河道形態	筑波大学水理実験センター報告, 2, 57-63.	1978

小野有五	周氷河営力としての霜柱	筑波大学水理実験センター報告, 2, 47-55.	1978
小野有五	アルプスの氷河とその消長	地理, 23(8), 53-63.	1978
甲斐憲次	気象観測塔における乱流変動量の観測とデータ処理について	筑波大学水理実験センター報告, 2, 25-36.	1978
川又良一	砕波帯内の二次元海浜変形	筑波大学水理実験センター報告, 2, 9-15.	1978
古藤田一雄	接地境界層における顕熱輸送について	筑波大学水理実験センター報告, 2, 17-24.	1978
古藤田一雄	琵琶湖流域の水収支	市川正己・榎根勇編著「日本の水収支」, 古今書院, 104-113.	1978
古藤田一雄 佐倉保夫 林甲斐	水理実験センターにおける熱収支・水収支観測システムとデータ集録処理について	筑波大学水理実験センター報告, 2, 65-89.	1978
佐倉保夫	土壌水分移動と地中温度分布の関係について(予報)	筑波大学水理実験センター報告, 2, 37-45.	1978
佐倉保夫	水温による地下水循環の研究	市川正己・榎根勇編著「日本の水収支」, 古今書院, 291-303.	1978
田宮兵衛 吉野林正 小甲林斐	筑波研究学園都市の気温分布観測	筑波の環境研究, 3, 150-156.	1978
服川部又昌 又良一郎	砕波帯内の海浜変形過程	第25回海岸工学講演会論文集(土木学会), 218-222.	1978
林泉陽耕 生二	富士山遭難記録表	筑波大学水理実験センター報告, 2, 97-102.	1978
山市本川莊 高鈴木正 鈴山茂 田木裕 古藤田雄 佐倉保一 保夫	筑波研究学園都市およびその周辺地域における河川の流出特性について 第2報	筑波の環境研究, 3, 157-161.	1978
吉小甲林田 野林正 斐啓陽 宮兵衛	筑波研究学園都市の気温分布観測—1977年7月—	市川正己・吉野正敏編「筑波研究学園都市の開発にともなう気候・水文環境の変化」, 34-39.	1978

池田宏 井口正 男	掃流砂量式について	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 1-5.	1979
池田宏 小野有 泉野耕 川又良 二一	水路床上を転動する固体粒子の移動速度	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 7-15.	1979
小野有 五	アフリカにおける気候変化	日仏理工科会誌, 29, 9-15.	1979
開発一 佐倉保 郎夫	散乱型中性子水分計の使用に関する問題	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 39-46.	1979
古藤田一 雄	植被面における風速分布パラメーターについて	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 17-24.	1979
Kotoda, K.	Wind profile and aerodynamic parameters above and within a plant canopy.	Ann. Rep., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, no. 5, 23 -27.	1979
古藤田一 林陽 生	接地層における気象要素垂直分布測定装置について	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 81-88.	1979
佐倉保 夫	浸透過程の地中温度変化から推察される 土壌水分移動について	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 33-38.	1979
佐倉保 古藤田一 夫雄	水分・密度自動計測システムについて	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 89-93.	1979
田口雄 佐倉保 市川作 高止夫 山正己 山茂美	筑波研究学園都市およびその周辺地域に おける河川の流出特性について 第3報	筑波の環境研究, 4, 162- 166.	1979
田宮兵衛 吉野正 小林啓 甲林陽 生	筑波研究学園都市の気温分布観測—主と して1978年1月—	筑波の環境研究, 4, 174- 179.	1979
Hattori, M. Kawamata, R.	Restoration of sandy beaches fronting seawalls.	Coastal Structures' 79, ASCE, 388-404.	1979
林陽 生	接地層における安定度パラメーターにつ いて	地理学評論, 52, 293-301.	1979
林陽 生	研究のトピックス—接地層のエネルギー 収支	日本農業気象学会関東支部 だより, (19), 4-5.	1979
林陽 生	耕地の微気象—接地層プロファイルの上 端と下端	日本農業気象学会関東支部 だより, (20), 10-12.	1979
林陽 生	牧草上における地面修正量と粗度長につ いて	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 25-31.	1979
松倉公 泉耕 佐々木 武田一 憲二 巽郎	風成デューンの風下斜面上における飛砂	筑波大学水理実験センター 報告, 3, 47-53.	1979

Yoshino, M. M. Kawamura, T. Hanafusa, T. Tamiya, H. Hayashi, Y. Takeuchi, H.	Meteorological wind tunnel at the University of Tsukuba.	Ann. Rep., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, no. 5, 28-31.	1979
新井 正夫 佐倉 保	最近の江川異状水温について	ハイドロロジー, 10, 2-11.	1980
池田 宏	大型水路による細礫の流送実験(1) —掃流砂量に及ぼす限界ストリームパワーの影響—	筑波大学水理実験センター報告, 5, 35-49.	1980
池田 宏 伊勢屋 ふじこ	天塩川下流部における河床形の観測	地形, 1, 57-72.	1980
池田 宏 伊勢屋 ふじこ	天塩川下流部における河床形と流砂の観測	北方科学調査報告, 1, 27-44.	1980
池田 宏 伊勢屋 ふじこ	天塩海岸の地形(第一報) —天塩町周辺の海岸地形と推残物—	北方科学調査報告, 2, 53-64.	1980
池田 宏 増伊勢屋 富士雄 桂 ふじこ 伊藤 雄 藤野 和 天野 慎孝	天塩町周辺の海成段丘	北方科学調査報告, 2, 43-52.	1980
泉 耕 二	衝撃的に運動を開始する円柱まわりの流れと揚力・抵抗の計測	筑波大学水理実験センター報告, 4, 31-40.	1980
Izumi, K. Kawahara, K. Horiuchi, K. Oshima, K.	Flow past an elliptic cylinder started impulsively.	Flow Visualization II, (McGraw-Hill), 394-398.	1980
市川 正 己 山本 莊 毅 高根 茂 美 樫 根 勇 古藤 一 雄 田中 正 田口 作 佐倉 夫 鈴木 裕 一	水文循環に及ぼす都市化の影響—筑波研究学園都市およびその周辺の場合—(総括)	筑波の環境研究, 5C, 5-18.	1980
井口 正 男	大型水路による細礫の流送実験	文部省科学研究費試験研究(2)報告書, 63p.	1980
井口 正 男	流砂と漂砂の粒径分布	地理学評論, 53, 769-780.	1980
井口 正 男 池田 宏 小野 有 泉 耕 二 川 又 良	筑波大学水理実験センター大型水路施設	筑波大学水理実験センター報告, 4, 55-87.	1980

Ono, Y.	Some considerations on the recent crustal movements around the Hidaka Range, Hokkaido, Japan.	Prof. S. Kanno Mem. Volume. 479-496.	1980
小野有五	日高山脈周辺の活断層について	筑波大学水理実験センター報告, 4, 41-53.	1980
Ono, Y. Kaizuka, S. Koike, K. Hirano, M.	Japanese geomorphology in the 1970' s.	Recent Progress of Natural Science Council of Japan, 5, 3-19.	1980
Ono, Y.	Glacial and periglacial geomorphology in Japan.	Progress in Physical Geography, 4, 149-160.	1980
小野有五	ベルギー・オランダの化石周水河現象	第四紀研究, 19, 331-340.	1980
Ono, Y.	Chronologie et signification paleoclimatique des phenomenes periglaciares fossiles, Hokkaido Est, Japon.	Biultyn Peryglacjalny, 6, 44-50.	1980
Ono, Y.	Abnormal sedimentation in the tephra layers in the Kami-Ina District, Central Japan.	Ann. Rep. Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, no. 6, 44-50.	1980
Ono, Y.	Mass balance of the pleistocene alpine glacier in the Japanese Alps.	Ann. Rep. Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, no. 7, 35-38.	1980
東郷正美 小野有五	活断層研究会編「日本の活断層—分布図と資料」帯広図幅	東大出版会, 54-55.	1980
卯田強 大小内 小野有 柳田誠	活断層研究会編「日本の活断層—分布図と資料」夕張図幅	東大出版会, 64-65.	1980
小野有 柳田誠	活断層研究会編「日本の活断層—分布図と資料」浦河図幅	東大出版会, 66-67.	1980
川又良一 佐々木巽	Bar のある海浜での平均水位変化に関する実験	筑波大学水理実験センター報告, 4, 11-23.	1980
古藤田一雄	ライシメーター蒸発散量とエネルギー収支法による蒸発散量の比較	筑波大学水理実験センター報告, 4, 1-9.	1980
古藤田一雄 林陽生	植物群落上の風速分布とその空気力学的特徴量について	農業気象, 35, 221-228.	1980
古藤田一雄 林陽生	群落内外の風速分布と空気力学的パラメーター	第1回大気・乱流シンポジウム, 国立公害研究所調査報告, 14, 137-147.	1980
佐倉保夫 開発一郎	野外土槽における雨水の鉛直移動	筑波大学水理実験センター報告, 4, 25-29.	1980
佐倉保夫 開発一郎	野外土槽における観測システムについて	筑波大学水理実験センター報告, 4, 89-92.	1980
Hattori, M. Kawamata, R.	Onshore-offshore transport and beach profiles change in the surf zone.	Proc. 17th. Int. Conf. on Coastal Eng. 1175-1193.	1980

林 陽 生	植物群落内部の風速プロファイルの数値解	地理学評論, 53, 389-395.	1980
林 陽 生 古藤田 一 雄	牧草地上の粗度長と地面修正量の特徴	天気, 27, 277-283.	1980
吉野 正 敏 田宮 林 斐 小甲 啓 陽 林 斐 陽	筑波研究学園都市の気候環境とそれに及ぼす都市化の影響	筑波の環境研究, 5C, 21-30.	1980
池 田 宏	沖積河道の地形変化に関する研究	地形, 2(1), 113-117.	1981
Ikeda, H. Iseya, F.	On the length of dunes in the lower Teshio River.	Trans. Jap. Geomorph. Union, 2(2), 231-238.	1981
Ikeda, H. Masuda, F.	Deformation of the coastal terrace by active folding in the Teshio area, northern Hokkaido.	Ann. Rep. Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, 7, 30-32.	1981
泉 耕 二 高 本 正 樹	リング後流の流れの可視化	流れの可視化, 1(2), 175-180.	1981
Inokuchi, M.	Behavioristic measure for coarse and non spherical particles.	Ann. Rep., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba. 7, 33-34.	1981
甲 斐 憲 次	気象観測塔で測定された乱流特性について	筑波大学水理実験センター報告, 5, 25-32.	1981
開 発 一 郎 佐 倉 保 夫	野外土槽中の不飽和土の水分特性	筑波大学水理実験センター報告, 5, 19-23.	1981
開 発 一 郎 岡 中 正 幸 岡 橋 生 幸	関東ロームの水分特性	地理学評論, 54, 266-271.	1981
川 又 良 一	沖浜帯における混合粒径砂の浮遊に関する実験	筑波大学水理実験センター報告, 5, 51-56.	1981
佐 倉 保 夫 開 発 一 郎	野外実験土槽における観測結果(1980年4~7月)一降雨浸透時の砂槽地中熱環境変化一	筑波大学水理実験センター報告, 5, 11-18.	1981
芹 沢 雅 之	山口川上流域における降雨時の流出現象について	ハイドロロジー, 11, 8-15.	1981
Takamoto, M. Izumi, K.	Experimental observation of stable arrangement of vortex rings.	The Physics of fluids, 24 (8), 1582-1583.	1981
林 陽 生 黄 水 鎮	風杯風速計と超音波風速温度計で観測した風速と摩擦速度の特徴	筑波大学水理実験センター報告, 5, 1-10.	1981
吉 野 正 敏	気候変化の実態 ア, 歴史時代	天気, 28, 543-547.	1981
Yoshino, M. M.	Orographically-induced atmospheric circulations.	Progress in Physical Geography, 5(1), 76-98.	1981

2. 学・協会等において口頭発表のもの（1975～1981年）

池田 宏	未固結の泥岩からなる河床にみられるタテスジ模様	日本地理学会 春季大会	1975. 4
林 陽生	局地風の風洞実験	日本地理学会 春季大会	1975. 4
林 陽生	空中写真からみた戸背分布の特徴について	日本農業気象学会	1975. 4
林 陽生	局地風の気候学的研究	日本気象学会 春季大会	1975. 5
佐倉 保夫	水温分布からみた地下水循環について	日本陸水学会 第40回大会	1975. 9
池田 宏 小野 有 増松 本	鬼怒川の流路変更と筑波研究学園都市周辺の地形発達	日本地理学会 春季大会	1976. 4
小野 有	谷川連峰の地形形成環境	日本地理学会 春季大会	1976. 4
古藤 一 吉村 越 笠原 義 筧 俊	西条盆地の流域貯留量変化と地下水環境について	日本地理学会 春季大会	1976. 4
Ikeda, H.	On the bed configuration in alluvial channels ; their types and condition of formation with reference to bars.	International Geography 76, 23rd IGC, Moskva.	1976. 6
佐倉 保夫	水温分布からみた地下水循環について（その2）	日本陸水学会 第41回大会	1976. 10
池田 宏	蛇行河道における砂礫堆について	日本地理学会 春季大会	1977. 4
井口 正 泉 耕	鬼怒川の河道形態	日本地理学会 春季大会	1977. 4
古藤田 一 雄	都市化進展地域の水害—とくに降雨特性との関係について—	日本地理学会 春季大会	1977. 4

佐倉保夫	地下水の流れにともなう熱移動について —簡単なモデルによる地下水流速と温度 分布の関係—	日本地理学会 春季大会	1977. 4
林陽生	「おろし」の実験的考察—地形と気流を 研究する立場から(1)—	日本地理学会 春季大会	1977. 4
泉林耕陽 二生	地形風の実験的研究(1)—円錐模型実験と 富士山周辺の流れについて—	日本気象学会 春季大会	1977. 5
佐倉保夫	水温分布からみた地下水循環について (その3)	日本陸水学会 第42回大会	1977. 6
Ono, Y.	Quaternary glaciation of the Hidaka Range, Hokkaido, Japan.	Xth INQUA Congress, Birmingham.	1977. 9
池田宏	水路幅が掃流砂量に与える影響について	日本地理学会 秋季大会	1977. 10
小松登 又部良 服部昌 太郎	Nearshore 帯での砂移動について	土木学会関東支部講演会	1978. 1
井口正男 池田宏	大型水路建設計画について—筑波大学大 型水路プロジェクト—	日本地理学会 春季大会	1978. 4
小野有五	フランス海岸アルプスの地形形成環境	日本地理学会 春季大会	1978. 4
甲斐憲次	接地境界層における乱流スペクトルの3 成分解析	日本地理学会 春季大会	1978. 4
古藤田一雄 佐倉保夫 林陽生	熱収支解析による土壌面蒸発量の推定と ライシメーター及び蒸発計による蒸発量 の比較	日本地理学会 春季大会	1978. 4
佐倉保夫 古藤田一雄 林陽生	地中温度分布と土壌水分の関係	日本地理学会 春季大会	1978. 4
林陽生 古藤田一雄 佐倉保夫	水理実験センター30mタワーで観測され た風に関するデータの評価方法	日本地理学会 春季大会	1978. 4
佐倉保夫	地中温度と土壌水分移動(T)	日本陸水学会 第43回大会	1978. 7
小野有五	霜柱による土壌侵食(1)	日本地理学会 秋季大会	1978. 10
古藤田一雄 林陽生	植被上の風速プロファイルと地面修正量 ・粗度長・抵抗係数について	日本農業気象学会 (関東支部例会第1回)	1979. 1

泉	耕二	斜め平板後方の流れ	日本物理学会 第34回年会	1979. 4
池田 小野 小泉 川又	宏五 有耕 良二	潜面水路床上を転動する固体粒子の移動速度	日本地理学会 春季大会	1979. 4
小野	有五	霜柱による土壌侵食(II)	日本地理学会 春季大会	1979. 4
古藤田	一雄	植被面上の風速プロファイルとそのパラメーターの相互関係について	日本地理学会 春季大会	1979. 4
林	陽生	牧草上における粗度長と地面修正量について	日本地理学会 春季大会	1979. 4
古藤田	一雄	柔軟な植被面上における風速分布パラメーターの相互関係	日本農業気象学会	1979. 4
古藤田 林	一雄 陽生	Flexibleな粗度要素上の風速分布パラメーターの相互関係	日本気象学会 春季大会	1979. 5
佐倉	保夫	地中温度と土壌水分移動(II)	日本陸水学会 第44回大会	1979. 5
佐倉	保夫	降下浸透中の土壌水分移動と地中温度	農業土木学会	1979. 5
川又 服部	良一 昌太郎	海浜変形の時間応答特性について	土木学会 第32回	1979. 9
甲斐	憲次	接地気層における乱流エネルギー収支について	日本地理学会 秋季大会	1979. 10
中川	慎治	不完全植被面からの蒸発散量について	日本地理学会 秋季大会	1979. 10
林吉 野	陽正 生敏	牧草地の熱収支一夏と冬の例について一	日本地理学会 秋季大会	1979. 10
吉野 河花 田房 宮林 竹内	正敏 龍武 兵衛 陽生 子秀	筑波大学に設置された成層風洞について	日本気象学会 秋季大会	1979. 10
堀泉 桑原	内耕 原邦 二郎	楕円柱をすぎる流れ	第29回応用力学連 講演会	1979. 11
古藤田 林	一雄 陽生	群落内外の風速分布と空気力学的パラメーター	大気・乱流シンポジウム 第1回	1980. 2
泉	耕二	衝撃的に運動を開始した楕円柱まわりの流れと揚力・抵抗の測定	日本物理学会 第35回年会	1980. 3

池田 宏	大型水路による細礫の流送実験	日本地理学会 日春季大会	1980. 4
井口 正男	砂質堆積物の粒径分布型とその図的表現	日本地理学会 日春季大会	1980. 4
小野 有智 正木 五幸	上伊那・竜西地域における最終氷期の段丘形成	日本地理学会 日春季大会	1980. 4
古藤田 一雄 林 陽生 甲斐 憲次 中川 慎治	植物群落内外における熱・水収支観測結果について	日本地理学会 日春季大会	1980. 4
芹沢 雅之 占藤田 一雄	山地小流域における降水時の流出現象について	日本地理学会 日春季大会	1980. 4
林 陽生	植物群落内風速分布に関する数値実験	日本地理学会 日春季大会	1980. 4
佐倉 保夫	地中温度と土壤水分移動(Ⅲ)	日本陸水学会 第45回大会	1980. 6
Ikeda, H. Iseya, F.	On the length of dunes in the lower Teshio River.	3rd Meeting of IGU Commission on Field Experiments in Geomor- phology, Kyoto.	1980. 8
Ikeda, H.	Experiments on the transport of a fine gravel in 4-meter-wide flume.	24th IGC, Tokyo.	1980. 9
Ono, Y.	La glaciation quaternaire dans les hautes montagnes japonaises.	24th IGC, Tokyo.	1980. 9
Izumi, K. Kuwahara, K. Horiuchi, K. Oshima, K.	Flow past an elliptic cylinder started impulsively.	International Symposium on Flow Visualization, Bochum.	1980.10
甲斐 憲次	接地層における乱流エネルギー収支と乱流特性について	日本気象学会 日秋季大会	1980.10
中川 慎治	植被面からの蒸発散	日本地理学会 12月例会	1980.12
池田 宏	マトリックスを欠いた礫層について	日本地形学連合・筑波応 用地学談話会「地形に 関する基礎的研究およびそ の応用」	1981. 3
中川 慎治	牧草地におけるアルベドの値について	日本農業気象学会	1981. 4
林 陽生	牧草群落上のレイノルズ応力について	日本農業気象学会	1981. 4
甲斐 憲次	接地層における乱流エネルギー収支について	日本地理学会 日春季大会	1981. 4

古藤田 一 雄 出口 賢 二	水位変動にともなう不飽和帯中の水分移動について	日本地理学会 春季大会	1981. 4
佐倉 保 夫	降雨浸透過程の地中熱環境について	日本地理学会 春季大会	1981. 4
武田 一 郎 井口 正 男	漂砂の粒径分布	日本地理学会 春季大会	1981. 4
林 陽 生	牧草地上を吹く風の特徴	日本地理学会 春季大会	1981. 4
水谷 かおり 池田 宏	筑波・稲敷台地面の微起伏とその形成過程	日本地理学会 春季大会	1981. 4
甲斐 憲 次	接地気層における乱流エネルギー収支と乱流特性について(2)	日本気象学会 春季大会	1981. 5
吉野 正 敏	東アジアにおける湿潤気候・乾燥気候分布の年々変化	日本気象学会 春季大会	1981. 5
高本 正 樹 泉 耕 二	リングからの渦発生	乱流シンポジウム 第 13 回	1981. 6
泉 耕 二 高本 正 樹	リング後流の流れの可視化	流れの可視化シンポジウム 第 9 回	1981. 7
Yoshino, M.M.	A climatological study on wind conditions in Sri Lanka.	IGU-Working Group on "Tropical Climatology and Human Settlements", Peradeniya.	1981. 7
高本 正 樹 小宮 勤 耕 二	リング渦流速計の試作	計測・自動制御学会	1981. 8
Yoshino, M.M. Urushibara, K.	Variation of wet and dry climate distribution over East Asia.	The Global Water Budget Symposium, Oxford.	1981. 8
Yoshino, M.M. Urushibara, K.	Past climates of the significant periods over East Asia and their special synchrony.	IAMAP of IUGG, Hamburg.	1981. 8
Yoshino, M.M.	Change of area-mean temperature and urbanization in Tokyo and its surrounding area.	IAMAP of IUGG, Hamburg.	1981. 8
佐倉 保 夫	降雨浸透過程の地中熱環境変化	日本陸水学会 第 46 回 大会	1981. 9
吉野 正 敏	冷気の流出と冷氣湖の形成について	自然災害科学総合シンポジウム 第 18 回	1981. 10
泉 耕 二 高本 正 樹	リング後流の渦輪列	日本物理学会 (秋の分科会)	1981. 10
Yoshino, M.M.	Interannual variability of the monsoon circulations in winter and summer and its effects on the climatic anomaly over East Asia.	International Conference on the Scientific Results of the Monsoon Experiment, Denpasar.	1981. 10

古藤田 一 雄	耕地における水収支	土壌物理研究会シンポジウム 第 23 回	1981. 11
甲 斐 憲 次	台風15号通過時における乱流変動量および気象要素の変化について	日本気象学会 秋季大会	1981. 12
吉 野 正 敏	スリランカの南西季節風と局地風	日本気象学会 秋季大会	1981. 12

3. 水理実験センターを利用した卒業・修士・博士論文（1976～1981年度）

甲 斐 憲 次	接地境界層における乱流スペクトルの3成分解析	（修，東京教育大学）	1976
伊勢屋 ふじこ	桜川における浮遊土砂と氾らん原堆積物	（卒，自然学類）	1977
関 田 洋 一	筑波稲敷台地南西部の地形	（卒，自然学類）	1977
佐 藤 正 弘	筑波山南斜面に沿う気温分布の日変化および季節変化	（卒，自然学類）	1977
下 村 則 雄	関東ローム層における水の降下浸透について	（卒，自然学類）	1977
高 橋 基 之	小櫃川中流部の河谷平野について	（卒，自然学類）	1977
山 本 真 司	不飽和透水係数の測定に関する実験的研究	（卒，自然学類）	1977
大 山 秀 樹	筑波研究学園都市のヒートアイランドについて	（卒，自然学類）	1978
岡 橋 生 幸	不飽和流の非 Darcy 性に関する実験的研究	（卒，自然学類）	1978
小 泉 健	リモートセンシングによる土壌水分の測定—グラウンド・トゥースを主体とした基礎研究—	（修，環境科学）	1978
中 川 慎 治	植生のある地表面からの蒸発散に関する研究	（特，地球科学）	1978
芹 沢 雅 之	山口川上流域における降水時の流出現象について	（卒，自然学類）	1979
高 橋 誠 一	茨城県鹿島灘沿地域の海陸風	（卒，自然学類）	1979

正木 智幸	上伊那・竜西地域における段丘の形成	(卒, 自然科学類)	1979
伊勢屋 ふじこ	砂床河川における自然堤防の形成—江戸川における河畔堆積現象について	(特, 地球科学)	1979
倉田 雄司	波による砂浜海岸の変形に関する二次元実験	(卒, 自然科学類)	1980
佐藤 朗	容量式自記テンシオメーターおよび容量式水分計の試作とそれらの野外への適用	(卒, 自然科学類)	1980
出口 賢二	水位変動に伴う土壌水分の移動に関する実験的研究	(卒, 自然科学類)	1980
烏谷 均	寒候期における地表面の熱収支に関する観測結果について	(卒, 自然科学類)	1980
仲谷 宏	水理実験センターにおける冬季の日最低気温について	(卒, 自然科学類)	1980
三上 靖彦	那珂川下流部の沖積平野の地形について	(卒, 自然科学類)	1980
水谷 かおり	筑波稲敷台地面の微起伏とその形成過程	(卒, 自然科学類)	1980
望月 敏成	スクリーンロスについて	(卒, 農林学類)	1980
寄崎 哲弘	冬期, 水理実験センター気象観測塔で観測された接地逆転の特性	(卒, 自然科学類)	1980
甲斐 憲次	Statistical characteristics of turbulence and the budget of turbulent energy in the surface boundary layer	(博, 地球科学)	1980
倉田 文	地表面付近における水分の挙動	(卒, 自然科学類)	1981
小泉 隆	地表面の熱収支と接地気層の気温について	(卒, 自然科学類)	1981
関口 裕	筑波台地上とその周辺低地との最低気温の差について	(卒, 自然科学類)	1981
田口 厚志	筑波大学構内におけるヒートアイランドの立体構造について	(卒, 自然科学類)	1981
谷口 真人	毛管水帯を考慮した不飽和鉛直流に関する実験的研究	(卒, 自然科学類)	1981
長嶺 陽一	恋瀬川デルタの水路形態について	(卒, 自然科学類)	1981
渡辺 悌二	相模川上流部の河岸段丘地形	(卒, 自然科学類)	1981
芦刈 照夫	渦輪の安定配列固有値の解析	(卒, 基礎工学類)	1981

市川 当	湖水体に流入する河川水の湖水温分布に与える影響について—中禅寺湖を対象にして—	(修, 環境科学)	1981
片澤 雅之	山地小流域における降雨流出機構	(修, 環境科学)	1981
高見 元久	傾斜地における飽和帯形成機構に関する実験的研究	(修, 環境科学)	1981
中島 三樹	リモートセンシングによる土壌環境の解析に関する基礎的研究	(修, 環境科学)	1981
間島 政紀	平地アカマツ林における林内降雨の時空間分布特性	(修, 環境科学)	1981

卒……卒業論文, 修……修士論文, 特……特別研究論文, 博……博士論文, 自然科学類……筑波大学自然科学類, 農林学類……筑波大学農林学類, 基礎工学類……筑波大学基礎工学類, 環境科学……筑波大学環境科学研究科, 地球科学……筑波大学地球科学研究科

水 理 実 験 セ ン タ ー

年	主 　　な 　　出 　　来 　　事	施 設 と 主 要 設 備 の 設 置
1975年	4月 水理実験センター体芸棟6階に発足 文部技官 佐倉保夫 " 林 陽生着任 6月 井口正男教授、池田 宏講師、小野有五助 手着任 7月 井口正男教授 水理実験センター長に着任 10月 臨時庁舎へ移る 12月 文部事務官 桜井和子着任	6月 プレハブ観測小屋建設
1976年	4月 文部技官 小島豊盛着任 6月 文部技官 泉 耕二着任 11月 古藤田一雄助教着任	3月 30m気象観測塔完成 10月 G P 1100熱・水収支データ集録装置設置 11月 仮設実験小屋（工作室）建設
1977年	6月 臨時庁舎より新営研究棟へ移転 8月 文部技官 川又良一着任	2月 熱・水収支観測圃場整備完了 3月 検定水槽設置 " ウェイングラインメーター設置 " 大型水路本体及び建屋建設 " 観測台車設置 9月 浸透型ライシメーター設置
1978年		3月 大型水路にポンプ設置 " 大型水路砂礫循環装置建設 5月 熱・水収支観測圃場に牧草の播種 " 接地層プロファイル測定装置の設置 7月 中性子水分計自動昇降装置の設置
1979年	7月 井口正男教授 水理実験センター長に再任	3月 大型水路砂礫篩分・混合施設建設 " 仮設水理実験棟建設 " 造波水槽及び開水路設置 10月 大型水路振像用天井走行電車設置
1980年	10月 文部技官 川又良一辞職 12月 文部技官 林 陽生 地球科学系助手に配 置換	3月 大型水路観測台車データ集録装置設置 " 大型水路実験制御データ変換装置 (MELCOM 70/25) 設置
1981年	4月 文部事務官 桜井和子 粒子線医学セン ターへ配置換 文部事務官 中島多美子着任 文部技官 甲斐憲次着任 文部技官 飯島英夫着任 6月 井口正男教授 水理実験センター長を解任 小野有五助手 地球科学系講師となり、水 理実験センター勤務を免除 8月 吉野正敏教授 水理実験センター長に着任	3月 MELCOM機能増設 " 大型水路ゲート高制御装置設置 6月 気象日報作成装置設置

の 歩 み (1975—1981年)

実 験 ・ 観 測 ・ そ の 他

大 型 水 路 関 係	熱・水収支観測回場関係	そ の 他
		8月 「施設計画」(黄表紙)印刷
	7月 第1回総合観測(データ集録装置のテストランとデータ処理プログラムの開発) 11~12月 第2回総合観測	3月 水理実験センター報告第1号刊行
6~7月 砂礫循環システムのテスト(径5~10mmと13~20mm礫について)	5月 接地層プロフィール測定装置による観測開始	3月 水理実験センター報告第2号刊行
7月 球形粒子の転動速度に関する実験	7月 中性子水分計自動昇降装置を用いた観測開始	7月 「熱と水の動き」(16mmフィルム、ビデオテープ製作)
8月 トラクター・ショベル運転技能講習	8月 総合観測	12月 第1回年次研究報告会開催(講演数17)
1月 砂礫循環システムのテスト(川砂について)	7~8月 特別観測(群落内部での風・放射の分布、牧草のゆれの観測)	3月 水理実験センター報告第3号刊行
3月 径5~10mm礫搬入		10月 「実験棟計画(案)」刊行
5~7月 径5~10mm礫の流送実験(1)		12月 第2回年次研究報告会開催(講演数17)
5~7月 径5~10mm礫の流送実験(2)	8月 特別観測	3月 熱収支・水収支観測資料集(第1号)刊行
10~12月 「砂礫堆相似」に関する実験		" 水理実験センター報告第4号刊行
		12月 第3回年次研究報告会開催(講演数18)
4~5月 斜め交錯竃に関する実験	7~8月 特別観測	3月 水理実験センター報告第5号刊行
5~8月 砂の流送実験準備		12月 第4回年次研究報告会開催(講演数33)
9月 砂の搬入		
10~11月 浮遊砂の粒度組成に関する実験		

1981年度水理実験センター施設利用状況

	教 育 関 係	研 究 関 係	
学 群	1. 地球科学基礎実験Ⅰ受講者	20人×1回= 20人	卒業研究利用者 利用期間 自然学類 8人 3ヶ月~12ヶ月 基礎工学類 1人 通 年
	2. 地形営力論実験受講者	6人×20回=120人	
	3. フレッシュマン・セミナー受講者	26人×1回= 26人	
	4. 気候学・気象学実験受講者	5人×1回= 5人	
	5. 基礎水文学受講者	50人×1回= 50人	
	6. 層序学実験受講者	5人×1回= 5人	
	7. 気候学・気象学実験受講者	5人×1回= 5人	
	8. 地球科学実験Ⅱ受講者	73人×1回= 73人	
	9. 気候学・気象学実験補講受講者	5人×1回= 5人	
	10. RJEおよびTSSの操作実習受講者	6人×1回= 6人	
	11. 凍上に伴う水と熱の動きについて 受講者	20人×1回= 20人	
	12. デルタ調査法受講者	10人×1回= 10人	
	13. 浸透実験受講者	10人×2回= 20人	
	小 計	365人	
大学院	14. 水文学特殊講義Ⅰ受講者	7人×3回= 21人	地球科学研究科 6人 3ヶ月~12ヶ月
	15. 環境科学野外実習Ⅱ受講者	25人×1回= 25人	環境科学研究科 7人 2ヶ月~12ヶ月
	16. 水収支論研究法講義受講者	5人×1回= 5人	
	17. 水収支論講義受講者	6人×1回= 6人	
	小 計	57人	小 計 13人
教 官	1~17の指導		地球科学系 5人 2ヶ月~12ヶ月 農林工学系 1人 5ヶ月 構造工学系 1人 3ヶ月
	小 計	17人	小 計 7人
その他	工作室利用者延見学 者	108人	地球科学系技官 1人 3ヶ月 工作室利用者延 12人
	J A I C A 研修生	10×4人	
	ターボ機械協会会員	45人	
	日本地下水学会	20人	
	小 計	253人	
	総 計	800人	総 計 42人

主 な 行 事

年 月 日	記 事
1981. 3. 14	昭和55年度第3回水理実験センター運営委員会開催 出席者：井口、樫根、鈴木、高山、古藤田 議 題：昭和55年度業務報告、昭和55年度会計報告（設備費・運営費）について
4. 1	文部事務官 桜井和子が粒子線医科学センターへ配置換となった 文部事務官 中島多美子が水理実験センターへ配置換となった 文部技官（準研究員）甲斐憲次、文部技官 飯島英夫が採用された
4.2～4.5	日本地理学会、春季大会開催にともない、多数の来訪者があった
6. 16	小野有五助手が水理実験センター勤務を免除され、地球科学系講師となった
6. 20	昭和56年度第1回水理実験センター運営委員会開催 出席者：井口、鈴木、吉沢、西沢、新藤、砂村、古藤田 議 題：昭和56年度予算執行（案）について、昭和56年度運用計画について、昭和57年度概算要求について
6. 30	地球科学系教授 井口正男が水理実験センター長併任を終了した
7.1～8.3	三浦功副学長が、水理実験センター長事務代行となる
8. 4	地球科学系教授 吉野正敏が水理実験センター長併任となる
8.6～9.3	センター長海外出張にともない、地球科学系教授井口正男が事務代行となる
9.11～16	地下水資源開発集団研修のため、南アジア・アフリカ諸国より10名が水理実験センター熱・水収支圃場にて研修
10. 23	日本地下水学会開催にともない、センター見学30名
11. 4	ターボ機械協会会員、センター施設見学45名
12. 23	昭和56年度年次研究報告会開催、発表者：32名
1982. 2. 26	昭和56年度第2回水理実験センター運営委員会開催 出席者：吉野、樫根、西沢、吉沢、砂村、古藤田 議 題：昭和56年度業務報告、昭和56年度会計報告（設備費・運営費）について
4. 1	文部技官（準研究員）佐倉保夫が千葉大学理学部助手に転出 文部技官（準研究員）中川慎治が採用された